

## 子ども読書活動推進計画推進会議とは？

— 委員の任を終えるにあたって — 増山正子

### ◇はじめに

2010(平成 22)年、第二次子ども読書推進計画より、「町田市子ども読書活動推進計画推進会議」(以下、「推進会議」)に市民(図書館ボランティア代表)として関わり、第三次子ども読書推進計画の推進会議を、あと1回残して、委員としての任期が満了した。

「推進会議」の節目節目で、当会報に報告文を掲載してきたが、改めて、町田市における「子ども読書推進計画」の経緯と問題点を探り、今後の進展に寄与できたらと思う。

2000(平成 12)年の「子ども読書年」を機に、翌年、国は「読書環境の整備は地方公共団体の責務である」として「子どもの読書活動の推進に関する法律」(2001年 12月)を施行した。

そして、2002年 8月に、全ての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、環境の整備を積極的に推進することを基本理念とする「第一次基本計画」を定め、4月 23日を「子ども読書の日」と位置付け、家庭、地域、学校等の連携・協力を重視した施策を打ち出した。

◇「第一次子ども読書推進計画」は、「町田市子どもマスタープラン」の中に

町田市では、10年計画の「町田市子どもマスタープラン」(2004年 12月)の最後の項「計画の推進に向けて」の中に、「第一次町田市子ども読書推進計画(以下、「第一次読推計画」)」(2005～2010年度)を組み入れ、巻末には第9期図書館協議会の提言書「子どもたちに豊かな読書環境を-町田市における読書活動の向上を目指して-」からの「子どもの読書環境の現状の『あなたの読書』についてのアンケート調査

報告」(2002年 9月)を参考資料とした。

図書館側は、マスタープランで掲げられた、子どもや家族に関する施策の3つの基本目標(「子どもが健やかに育ち一人ひとり自分の中に光るものを持っている」「子どもが安らいでいる家族があり、家族が地域とつながっている」「子どもが地域の中で大切にされている」)に、全市を上げて取り組んでほしいという願いから、急ピッチで策定し出したとのことだったが、10年計画とする膨大なマスタープランの中には、「第一次基本計画」の閣議決定で謳っている、子どもの読書活動の向上についての取り組みは、希薄なものだった。

◇第二次子ども読書推進計画(2010～2014年度)  
市民も策定委員会に参画

計画策定に、市民も参画させて欲しいという図書館への要望が叶い、第一次読推計画最後の年の2009年 8月より、月1回、計4回の「第二次読推計画懇談会(委員8名:図書館協議会委員・公立小・中学校長会代表・私立幼稚園協会代表・法人立保育園代表・学童保育クラブ代表・障がい児の保護者代表・子どもの読書活動ボランティアの代表)」が設けられ、全庁をあげての「作業部会」からの計画案を受けて、それぞれの立場で意見を出し合い、その結果をまた「作業部会」に戻して相互に検討しあうという策定委員会が持たれた。

市の教育プランに則って「自ら進んで本を読む子を育てる」という基本理念を掲げて話し合ったが、市側との図書館に対する共通認識にかなりの差があり、そのための話し合いに時間が割かれて、結果的には、懇談会側の意見が少々取り入れられたに留まり、人の問題と予算を抜きにして、たくさんの項目を盛り込んだ状態の案が見切り発車となり、策定された。

しかし、作業部会、懇談会、教育委員会等の間に立っての調整役を真摯に遂行して下さった図書館長はじめ事務局を担った児童サービス委員会の方たちの苦勞は、大変だったと思う。

そして特筆すべきは、生涯学習部図書館が所管する計画の進行管理「町田市子ども読書活動推進会議」の設置を「第二次子ども読書推進五か年計画」に盛り込んで下さったことだ。

これにより、14名の推進委員<小・中学校長代表、小PTA連絡協議会代表(要領:小学校の読書活動に携わる保護者)、中PTA連合会代表、私立幼稚園協会代表、法人立保育園協会代表、ボランティア(図書館・学校関係)代表、図書館協議会代表、子ども生活部(児童青少年課長・子育て推進課長)、教育委員会事務局学校教育部(教育総務課長・学校教育指導課長)、教育委員会事務局生涯学習部図書館長>による「推進会議」が、1期(1年)に2回開かれ、市の担当部署よりの進捗状況を聞いて、市民が質問や意見を述べ合うという機会が持たれるようになった。

計画の基本理念は「自ら進んで本を読む子を育てる」、基本目標は「1. 子どもが本と出合うきっかけ作り、2. いつでも身近なところに本がある環境の整備、3. 子どもの読書に関わる本の配置と育成」を掲げ、町田市すべての子どもが、本と出合える・本を手渡してくれる人と出会える場、を考慮に入れた読書環境作りをめざして年度計画を立て、担当課と関連課を明記して推し進めようという計画がスタートした。

#### ◇「推進会議」スタート！

第1回(2011.8.31)は、設置要綱(右記)が配られ、委員長、副委員長の選出が行われ、増山が委員長に就いた—そのあと再選を繰り返し、委員の任が解けた第17回会議(2019.6.27)までずっと、この責を負うことになる。

1年に2回の会議は、その前半期の計画の進捗状況を項目毎に各関連部署の担当課長が報告し、それに対して、委員から質問・意見を受けるという形で進めていくのだが…。積極的にこの計画を推進していきたいと意欲を持って参加している委員よりも、担当だからとか、順番で仕方なく充てがわれてとかで、1、

#### 町田市子ども読書活動推進計画推進会議設置要綱

平成23(2011)年6月1日施行

要領に改訂 平成29(2017)年8月1日

#### 第1 設置

町田市子ども読書活動推進計画(以下「計画」という。)を効果的に推進するため、町田市子ども読書活動推進計画推進会議(以下「推進会議」という。)を置く。

#### 第2 所掌事務

推進会議は、次に掲げる事項を行う。

- (1) 計画の進捗状況の検証に関すること。
- (2) 計画の総合調整に関すること。
- (3) 計画の推進に係る情報交換及び連携に関すること。
- (4) 前3号に掲げるもののほか、計画の推進に関し必要な事項

#### 第3 組織

- 1 推進会議は、委員14人をもって組織する。
- 2 委員は、別表に掲げる者のうちから、教育委員会が委嘱し、又は指名する。

#### 第4 委員の任期

- 1 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 2 委員は、再任されることができる。ただし、原則として、4回を限度とする。

#### 第5 委員長等

- 1 推進会議に委員長及び副委員長を置き、委員の互選により定める。
- 2 委員長は、推進会議を代表し、会務を総理する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

#### 第6 会議

- 1 推進会議は、必要に応じ委員長が招集する。
- 2 委員長は、必要があると認めるときは、推進会議に委員以外の者の出席を求めることができる。

#### 第7 庶務

推進会議の庶務は、教育委員会事務局生涯学習部図書館において処理する。

#### 第8 委任

この要綱に定めるもののほか、推進会議の運営に関し必要な事項は、委員長が推進会議に諮って定める。

別表(第3関係)文中に記入

2回の会議に出てきただけで委員を交代するという中で、要綱(要領)に書かれている、計画の進捗状況を検証し、計画の総合調整について意見を述べるということとは不可能に近い。勢い、委員長として喋りすぎると

いう失態も多かった。

毎回のよう○月○日付け委員名簿が配られ、自己紹介をしてから始まる1年に2回のこの会議は、「行政組織と市民が連携して情報交換をしながら、意識を高めてこの会議を進めていきたい」という初頭の挨拶からは程遠いものがあった。しかし、初めて委員になられた方の中には、「役所の方たちを含めこんなに熱心に会議が持たれていたとは、すごいことだ」と驚いておられる方もいて、推進会議の存在は、とても重要であることは重々認識している。

子どもの居場所を網羅する人たちの集まりでもあるこの会議が、子どもの身近に本があり、子どもと本を結ぶ人がある環境が整うことを願って真に話し合うならば、子どもの読書推進計画は2倍にも3倍にも押し進められ、町田の子どもたちの読書環境は向上するに違いないと確信している。

#### ◇第三次策定委員会を、アドバイザーとして傍聴

第二次子ども読書推進計画5年目に入り、第三次の計画策定が、学校教育と社会教育の庁内関係者2部構成の策定委員会で押し進められていることを、推進会議で知らされた。推進委員のメンバーはアドバイザーとしての傍聴を許され2つの部会の最終会議に出席した。委員は全て市の職員。熱心に子どもの読書について考えてくださってはいるのだが、文章が独り歩きして目に見えることに重点を置いた変わらぬ策定に正直ガッカリする。殆ど出来上がった状態で、意見を求められ、ソフト面の施策が欠如している点についてかなり厳しいことを言ったが、委員会の方たちも庁内の予算配分が少ない中で努力されたのでしょう、「人」に関する施策は計画に反映されることはなかつ

た。

◇第四次町田市子ども読書活動推進計画(案)が出されました！

<https://www.library.city.machida.tokyo.jp>  
最後に出席した第16回推進会議では、既に出来上がった第四次読推計画(2020年度～2024年度)が出され、委員に意見を求められた。

第四次の推進計画の策定委員は、推進会議委員でもある市の関係部署と、学校の校長代表の人たちである。自分たちが作成した計画の進捗状況を、推進会議でチェックしてもらうという甘い考えが、私には解せない。

計画策定に一切関与せず、出された計画の進捗状況の報告を聞き意見交換をするという、今の推進会議は、各担当部署の職員にとっても、図書館職員にとっても、事務量を増やすだけで、時間の無駄であると同時に、予算の無駄遣いに過ぎないのではないかと。

推進委員(子どもたちの読書環境を心から良くしたいと思っている人たち)の意見が反映した読推計画を、市の担当部署がしっかり遂行しているかどうか、それをチェックするために設置された推進委員会を目指して、市当局は努力して欲しいと願っている。

◇「子ども読書推進5か年計画」は、次年度より、第四次計画に入る

文部科学省は、昨年4月20日、第四次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」をウェブサイトで公表している。

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/30/04/14\\_03863.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/30/04/14_03863.htm)

(会員)

## 町田の図書館活動をすすめる会に入会しましょう！

図書館は現在、大きな危機に直面しています。図書購入費を始めとする資料費の大幅削減、その影響による利用・貸出しの減少、公共施設再編計画による図書館再編、具体的には「町田市立図書館のあり方見直し方針」(2019年2月教育委員会)によって、鶴川図書館とさるびあ図書館が集約(廃止)の対象とされています。さらに、「効率的・効果的な図書館サービスの方向性」への意見について、図書館協議会の意見を聴くことになっています(図書館長の諮問機関である図書館協議会に直接諮問しないこと自体が問題です)。

町田市立図書館の危機を克服するため、「すすめる会」に加入して、私たちと一緒に活動しませんか？

こんな本み〜つけた！(第20回)

## 『浪江虔・八重子 往復書簡』

浪江虔・浪江八重子 著

『浪江虔・八重子 往復書簡』刊行委員会 編

ポット出版 2014年

紹介:里見 朋子

浪江虔・八重子 往復書簡



「すすめる会」の会員には刊行に携わった方もいて大変気が引けますが、読んでみてとても興味深かったので他の本の感想を書く気にもなれず、この本をご紹介しますことにしました。

浪江先生は町田にまだ図書館のなかった1939年(昭和14年)に私財を投じて「南多摩農村図書館」を開設されました。後の私立鶴川図書館の前身です。ところが翌年共産党再建運動に加わっていた兄の巻き添えで検挙(2度目、1度目の検挙は執行猶予が付き、農村図書館開設を決意)され、3年9か月に及び警察署、拘留所、刑務所に拘禁されてしまいます。

この本は、浪江先生が拘留所勾留中、刑務所服役中に妻の八重子さんやご家族と交わした書簡集です。本来他人が見てはいけない夫婦間、家族間の手紙のやり取りに感想を言うのもおこがましい限りですが…

生前の浪江先生を知る T 女史に「浪江先生ってどんな方でしたか？」と聞いてみました。「先生はいつも会議の10分前には席について、先生がいらっしゃると自分の背筋がピッと伸びる感じでした」と教えてくれました。

拘留所、刑務所から妻の八重子さんに驚くほどたくさん本、農業関連書を中心に生物、科学、教育、文学等あらゆる分野の本を差し入れるよう依頼しています。自宅にない本も書店から取り寄せたり古本屋街を片っ端から探すよう頼んでおり、その意欲と向上心に驚愕するのですが、私が共感し心から尊敬の念を抱いたのは妻の八重子さんの献身で

す。乳飲み子と幼子を抱え家事をこなし、産婆の資格を取り開業し、夫の希望に可能な限り応えられるよう本を探し、毎週のように手紙を書く。更に夫からの希望で推薦書を読み、育児日記を書く。それでも「手紙の文章量が少ない」と言われる時もある。手紙だけが家族や刑務所の外的世界と繋がる唯一のものだけれど、八重子さんがどんなに毎日くたびれ果てていたか、そばにいる人のように感じられ、女性で主婦の私は浪江先生を悪く思っていました(ごめんなさい!)。八重子さんも手紙の中で本当にたまにピリッと「深いところがない」「一から十まで理論的」とおっしゃっています。でも後半まで読み進むにつれ、浪江先生のくじけない心、理想と希望を失わない心に感動しました。漸く出所となる前の最後の八重子さんからの手紙は本当に清々しく、穏やかでまるで雪の降った翌日の晴れた日のような印象でした。

書簡をこのような本の形でまとめてくださったおかげで、私も読むことができ、思いを馳せることができました。大変なお仕事に感謝します。

(木曾山崎図書館嘱託員)

\*本書については、当会が刊行委員会を立ち上げて出版したものです。浪江虔氏は当会の創始者でもあります。本書は浪江氏のご長女である野沢陽子さんから図書館に多数寄贈されました。ぜひご一読ください。



## 鶴川図書館大好き！の会

# 「We<sup>ウィラブ</sup>♡鶴川図書館」PR 動画制作ワークショップと 11月16日(土)鶴川図書館応援まつりに向けて

鈴木 真佐世 (鶴川図書館大好き！の会)

標記の内容検討と準備のために、鶴川図書館大好き！の会第5回の集まり(9月29日午前)と第6回の集まり(10月20日午後)を鶴川団地5丁目集会所ふれあいルームで行いました。(参加者は各8名)

### ①PR動画制作ワークショップについて

・参加者募集:募集人員を10名前後として、募集チラシを作成、10月初めに配布しました。鶴川市民センターや鶴川地域の2図書館には置いていただけましたが、市の方針に沿わない活動ということで、地元の小学校などでは配布を認めていただけず、募集活動は難航。

・1回目ワークショップ:10月12日が台風で開催不可能となり、急きよ20日にずらすも周知できず、参加者がいなかったため、当日はスタッフが今後の日程や段取りを相談。以下のように決まり、撮影日も確定。再度参加者募集チラシを作成、配布中。

・2回目ワークショップ(図書館の撮影):当初休館日しか撮影できない見通しでしたが、図書館が検討して下さった結果、休日の朝一番なら利用者も比較的少なく迷惑がかからないということで、日曜日に撮影可能となり、日程調整の結果、11月10日に決定。9時に鶴川図書館に集合して10時30分まで撮影、その後、鶴川団地5丁目集会所で、撮影した動画を見ながら、参加者との話し合いの予定。

・3回目のワークショップ(11月17日(日)の午後1時半~4時、鶴川団地5丁目集会所)、年明け1月の4回目のワークショップを経て、5~10分の作品に仕上げます。完成目標は来年3月。完成しましたら、鶴川市民センターなどで発表会をする予定。

### ②鶴川図書館応援まつりについて

趣旨については「知恵の樹」№238をご参照ください。

場所:鶴川団地センター名店街「太陽の広場」。図書館前に近い場所で、テントを3張り準備して開催。

日時:11月16日(土)午前10時30分~午後3時  
(準備は午前9時~、後片付け:午後3時~4時)

内容・出し物:署名集め、図書館クイズ、古本市などは5月バザーや7月夏まつりと同じように開催。

・今まで集まった鶴川図書館大好き！の絵は、従来大きなベニヤ板3枚に貼って展示していたものを、今回、手元でゆっくり見られるようにバインダー形式に作ることに。

・お気に入りの本を紹介:鶴川図書館の利用、貸し出しが増えるような協力を考慮中。

・休憩コーナー:エコストーブで沸かしてコーヒーを入れ、コミュニティーの場に。図書館、本についてのおしゃべりも場ともなることを期待。

・オープニングにプラスバンド演奏(みどりの森保育園のママさんプラス出演)

・工作コーナー:松ぼっくりやどんぐりを使って(鶴川冒険あそび場の協力)、ダンボールを使っておおきな本作り、端切れを使って本のしおり作り。

・ニュースポーツ(ポッチャ、ダーツ、ラダーゲッター)  
(町田市レクリエーション連盟の協力)

・バルーンアートの実演(同上)

・アピールステッカーの製作:「鶴川図書館をなくさないで」というような文言とイラストを入れたカードをラミネートシートしたステッカーを200枚ほど制作、当日支持者に無料配布。

・まつり当日の動画撮影:PR動画制作の一環として

・当日お手伝いできる方はよろしくお願ひします。

### ③「鶴川図書館大好き！」文集制作について

図書館利用者を対象に募集。文集作りは3月に原稿締め切りで、6月くらいの完成をめどに進める。原稿用紙とお願ひの文をセットにしたものを応援まつりの署名ブースで配るようにしたい。提出先は、手渡しは代表者、富岡さんの店、メールでは鈴木宛とする。今までに集めた図書館大好き！の絵画や文章も載せる。

文集は図書館などに置いてもらい、市議や市長、マスコミに送る。

次回の集まり:11月10日(日)午後1:00～、鶴川団地5丁目集会所にて、まつりの最終準備。

# 鶴川図書館応援まつり

鶴川団地センター名店街<太陽のひろば>

11/16  
(土)  
10:30～  
15:00



みんなの鶴川図書館がこれからも鶴川団地の中に存続することを願って、まつりを開催します  
皆さんもぜひ応援してください

☆アビールステッカー無料配布

<午前・午後 通して>

古本市(絵本、文庫本等)  
とミニバザー

お気に入り本紹介  
(鶴川図書館から  
借りた本で)

鶴川図書館  
クイズ

鶴川図書館存続を願う  
要望書署名集め

鶴川図書館大好き!の作文  
と絵の募集(用紙配布)

☆おにぎりと豚汁の販売  
エコストアでコーヒー  
と図書館・鶴川の街に  
ついて語り合しましょう

<午前>

10:30～ オープニング挨拶後  
フラスバンドでオープニング  
(みどりの森保育園ママさんフラス)

10:55～  
人形刺と紙芝居・大型絵本  
(株の木文庫)

11:45～ 朗読  
(朗読グループ・すみれ)

<午後>

13:00～  
1 松ぼっくりやどんぐりで工作  
(鶴川児童あそび場)  
2 ダンボールで本を作ろう  
3 端切れで本のしおりを作ろう

14:00～ 1 ハルーンアート  
2 ポッチャなどのニュースポーツ  
(町田市レクリエーション連盟)

14:40～紙芝居と大型絵本等

主催:鶴川図書館大好き!の会

代表:宮岡秀行(鶴川団地センター名店街及び鶴川団地自治会事務局)  
連絡先:鈴木090-1863-5174



## 第18期図書館協議会 第2回定例会報告(報告者 清水 陽子)

2019年9月27日(金)午前9:30~11:30 中央図書館・中集会室 傍聴者:1名

### 1. 会議録の確認

第1回定例会で、事務局より今期から議事録は発言者併記の要録とするという説明があったが、議事録案には記名は一部のみでほとんどの部分は、委員、委員長、事務局という表記だったことに対し、併記で行うのではなかったのか、と委員より質問があったが、自由な発言を担保するため記名のない議事録が一般的なので、そのようにしたいと説明があった。それに対し、委員からは今までも問題はなかったので変える必要はない、併記しない方がよい、どちらでもよいと意見が分かれた。この件についてこの日は議論する時間が取れないので、持ち越しとなった。この他に前回から持ち越されていた①委員の個人的録音の可否については、データがどのように出回るかわからないので遠慮願いたい、と認められず、②録音データを図書館の資料にする要求については、議事録確認時までは委員には図書館で利用させるが、資料として残すことはせず、議事録が確定され次第処分するとの説明に、議事録が要録になったので、ある程度の期間は検証できるように保存すべきで議事録が成立した時点での処分は早すぎるという意見が出て、この件に関しても継続して検討することになった。

### 2. 「効率的・効果的な図書館サービスの方向性」への意見について

○サービスのアクションプランへの意見について

#### (1)「移動図書館の出張運行」について

事務局:運行見直しを考えている。現在3台で運行しているが、利用はかなり下がっている。不便な地域を回っているという役割もあるが下がったままでよいのかという課題もある。3台のうち2台を巡回に回し、1台をイベントなど人の集まる場所に回すということも考えている。

委員意見:

- ・移動図書館の貸出数は小さな図書館1館ほどの数になっている。今後館数を減らすとなると移動図書館の役割はさらに重要。
- ・イベント参加は貸出の目的に合うのか。

・本がいつも同じで借りる本がないと感じられていることも、利用者が減少する原因となっている。

・数が減ったから廃止するというにはならない、必要としている人がいるからそこに届けるという考え方が必要。冒険あそび場に来た移動図書館で本を借り、その本を図書館で返すということで、図書館との関わりが生まれる。

・サービスポイントを減らすのではなく、幼稚園のお迎え場所や商業施設などポイントをさらに検討し、予約した本を受け取れるなど移動図書館の機能をもっと宣伝してみたい。

・高齢者施設等や学校をポイントにしているところもある。三鷹では、自治会と連携して、移動図書館のポイントでカフェを開いているところもある。

・高雄(台湾)は自動貸出機が駅などにある。より強化しようとしているのか、減らすことを考えるのかをまず考えるべき。強化しようとするなら、お金は必要。もし縮小しようとするなら縮小に反対。

委員長:様々な意見が出たが、縮小ではなく様々な可能性をご検討いただきたい。

#### (2)「学校図書館支援の充実」について

事務局:積年の課題としているが有効策を打っていないので。

委員意見:

・学校図書館が活発に使われるように考え、事例を収集し「図書館活用の手引き」を作成中。図書館を使えるような環境を作ることを考えている。

・中学での図書館利用は進んでいない印象。町田では司書さんに相談して授業に使う本を揃えてもらうということが出来ない。他校の様子を知りたい。

・学校司書が配置されていないので、学校に支援を受け入れる体制が整っているとは言えない。図書館が模索されてもなかなか効果は上がらない。学校側から支援して欲しい内容を打ち出すようでない、機能するのは難しい。一般の教員や管理職も図書館研修を受けられるようにするのも学校支援となるのではないのか。

また、図書館の資料費は支援貸出制度が始まった2008年の3分の1程度になっており、最近では支援貸出で貸出された本が古いという声を聞く。資料費の回復は急務。

・小学校と中学校の読書に対する温度差を感じた。指導要領も変わり、中学の国語では追い風が吹いている。お金の問題はあるが、学校教育部と連携して、読書の啓発をする。小金井市のように教科書に出てくる作家の関連本のパッケージを学校に提供することや委員会活動と生涯学習がタイアップするなどの工夫も考えられる。

### (3)「地域協働による図書館運営」について

事務局：更に有効・先進的な協働の形へのアドバイスを。

委員意見：

・ボランティアとはそれぞれの専門的な知見を活かして何らかの貢献をしていただくものだ。書き方として、代替ではなく、新たなサービスを付加するためにボランティアと共にするのが協働、とした書き方がよいのではないかと。

事務局：労働力としては考えていない。書き方が良くなかった。

委員意見：

・排架については司書がするべき。  
・現在ボランティアをしている人がヒントを与えてくれるので、そこから広げては。

・どういことを協働するかということについても市民と一緒に考えて欲しい。

・図書館HPにボランティアのページを設け、活動の内容がわかるようにすることも必要。

・図書館はもともと高い専門性を持っている。それをボランティアで代替することはできない。ボランティアの条件は無償とされているので、労働力の安い使用になってしまう可能性があり、安易にボランティアという言葉を使うのは問題。また、地域協働の図書館運営という言葉は、指定管理を考えていく可能性もある表現で、取り組みの表題そのものを変えていった方がよいのではないかと。

委員長：表題についても検討していただきたい。

### (4)「中高生の居場所づくり」について

事務局：中高生対象のお茶を飲みながら勉強できる

ようなスペースは、近年要望が多い。スペースには限りがあるので、優先順位、静かに過ごしたい人との兼ね合いなどに対するご意見を。

委員意見：

・内容は勉強スペースを作ることか。居場所づくりとしてはもっと広く考え、すでに子どもの居場所としてあるところと連携してイベントなどを支援することも居場所づくりでは。

・アメリカでは将来のためのスキルとしてプログラミングや映像の編集技術などを図書館が提供している。読書に限らずに中高生に必要なものを提供していくこともできるのでは。

・勉強という概念について考えてみて欲しい。プログラミング教室や学校ではできないコンテンツを学校を借りて提供することを考えてもよいのでは。

・勉強したい人の場なのか、居場所としての場なのか、たむろする場なのかということはあるが、図書館のような公共の場所にそのような場があるのもよい。武蔵野プレイス、マーチ、シリウスを見たがそれぞれ違ったやりかただった。

・「居場所」とは何かを図書館としてもっと深く考えて欲しい。今、居場所になっている子を追い出すことがないように。

### ○2024年度以降の図書館の展望と取り組むべきこと

委員意見：

・読書推進計画は第3次まで遂行されたにもかかわらず、小学生の不読率は上がっている。第5次の計画策定時には第4次を踏襲することではなく、図書館を中心に市民と各部署と共に一から考え直すべきではないかと。

・素案を作成する時には市民の意見を深く聞き、具体的なプランを市民と練り上げることが必要。

### 3. 運営手法の比較への意見について

事務局：第3回協議会(10月31日)でご意見をいただきたい。

### ○民間活力導入の検討の背景と比較の表の説明

現在、施設管理などでは既に委託で行っているが、図書館運営そのものは直営。目指す姿を実現するための効率的・効果的な図書館サービスの方向性として、運営体制を見直すにあたって、民間活力の導入は一つの有力な手法であり流れと考える。生涯学習



審議会の答申でも、民間活力の導入に言及し、メリット・ディメリットについてよく検討するよう指摘されている。色々な手法を比較するとともに、どの範囲で導入するかを考え、いっしょに取りをしていきたい。

委員長:これだけの資料ではわからないので、他の自治体の様子なども聞かせて欲しい。

#### 4. 2018年度図書館評価の外部評価について

前回、事務局が外部評価を簡素化するという提案をすると発言されたが、委員より第2期の最終年の評価なので同じように評価すべきと申し入れをし、今年度の評価をどのように取り扱うか定例会で話し合い、簡素化せず昨年と同じ評価方法であることを確認した。

#### 5. 館長報告

##### (1) 第3回町田市議会定例会

1) 一般質問 図書館関連質問は友井かずひこ議員、大西宣也議員

2) 文教社会常任委員会 行政報告:システム更

改に伴う図書館の臨時休館について

##### (2) 町田市教育委員会第6回 定例会 (9/18)

○報告事項・「第4次町田市子ども読書活動推進計画(案)」市民意見募集の実施について/図書館の臨時休館について

##### (3) その他

○2019年度 町田市市民参加型事業評価の実施について

開催日:11月24日(日)

テーマ:「公民館・図書館・生涯学習に関すること」

#### ★次回第18期図書館協議会第3回定例会

2019年10月31日(木)午後2:00～

町田市立中央図書館ホールにて

傍聴しましょう!

#### ★永山公民館市民企画講座

当会会員の青木洋子さん(多摩市に中央図書館をつくる会代表)からのお知らせです。

#### 連続講座『中央図書館の中身を考えよう — 役立つ図書館にするには』

第1回「支える職員体制と市民協働の姿」

日時:11月2日(土)午後2時～4時30分

講師:森下芳則氏(田原市図書館初代館長)

第2回「新しい図書館計画について」

日時:12月1日(日)午後2時～4時30分

講師:萩野健太郎氏(多摩市立図書館本館再整備担当課長)

会場:多摩市消費者センター(ペルブ永山)3階講座室

京王線・小田急線永山駅下車徒歩3分

定員:40人(申込み不用、直接会場に)

参加費:資料代第1回300円、第2回100円

共催:多摩市に中央図書館をつくる会

問合せ:青木 090-7002-1588

鈴木 Tel/fax 042-389-6809

第34号

2019年11月3日(日)  
開演の集合は10時(9時開演)  
開演:10時～15時30分  
会場:野原に集い、自然と子供が主役のお祭りの会場  
(大入口・野原に集い、自然と子供が主役のお祭りの会場)



今年も20余団体が野原に集い、自然と子供が主役のお祭りを開きます。当会も参加します。皆さん、遊びに来てください!



## 例会 9/24(火) 報告

- ・16:30～印刷・発送作業等:  
清水・鈴木(真)・手嶋・丸岡
- ・18:20～20:20 中央図書館・中集會室  
出席:石井・久保・里見・清水・鈴木(真)・  
手嶋・野口・守谷

## 議題

### 1. 会報について

次号(No239):巻頭言「町田市立図書館協議会」について(山口)、「子ども読書推進計画」推進会議の委員を終えて(増山)、「こんな本見～つけた!」第20回(里見)、9/29(日)鶴川図書館大好き!の会第5回の集まり、他報告(鈴木(真)・守谷)、図書館協議会第2回定例会報告(清水・鈴木)

### 2. 会費長期未納者への対応について(省略)

### 3. 今年度の活動計画について

「町田市5ヵ年計画 17-21」、「町田市公共施設等総合管理計画」への対応

まちだ未来の会と連携して活動する。

「すすめる会」独自の取り組みも行う。

「未来の会」と「すすめる会」の関係について、これまでの議論を整理し、更に議論を継続した。

#### 講演会

今年度限りで東京学芸大学を退官予定の山口源治郎さんの講演会を実施したい。1/25,2/1,2/8,2/15(何れも土曜日)を候補として、手嶋が山口さんと交渉する。⇒2月1日(土)午後後に決定。

テーマ:図書館の首長部局への移管について、または指定管理者制度について、町田市の動向に合わせた設定としたい。

#### 図書館見学会

今年4月に運営が委託から直営に戻った茨城県守谷市中央図書館を見学し、交流する(担当鈴木(真))。2/29,3/7,3/14を候補として手嶋が先方に打診。

#### 図書館まつり

3月29日(日)の午前にホールで行うことに決定、第一希望として申し込み、希望どおりの場所・時間で取れた(何をテーマに取り組むかは未定)。

### 4. 「町田市5ヵ年計画 17-21」、「町田市公共施設等

### 総合管理計画」等について

#### まちだ未来の会の取り組み

・まちチャレ(「講座づくり☆まちチャレ」)「もっと知りたい!町田ならではの歴史と文化」全5回

#### 鶴川図書館大好き!の会の取り組み

・秋のイベント取組の状況について

「知恵の樹」No238 参照

・次回第5回の集まり

日 時:9月29日(日)午前9時30分～正午

会 場:鶴川団地5丁目集會所

・鶴川図書館応援まつりについて協力をお願い

日 時:11月16日(土)

会 場:鶴川団地 太陽の広場

・すすめる会としても協力する。

### 5. 図書館協議会について

8月の定例会でアクションプランについて説明。その中から特に意見を求められている4つのテーマがある。①移動図書館の出張運行について②学校図書館支援の充実について③地域共働による図書館運営:配架・修理ボランティアなどの他、さらに有効・先進的な共働への取組のために。④中高生の居場所づくり。第3回図書館協議会は、運営手法について協議する予定。

### 6. 会計年度任用職員制度への対応について

雇止め導入を許さない取り組みは難しいので、実質的に雇止めをさせない(希望者を全員任用させる)ことを図書館長に申し入れる。ただし、図書館嘱託の方針がこの提案に合致している場合に限る。→了承

### 7. 10月、12月の例会について(省略)

## 報告

### 1. 団体及び個人からの報告

図書館嘱託労:10月10日(木)館長との話し合いを予定

学校図書館を考える会:2月22日(土)鈴木まもるさん講演会予定 図書館ホールにて

守谷:『ベン』169号(町田ペンクラブ)に「図書館の危機」執筆

≪編集後記≫大雨による浸水被害は、図書館にも及んでいる。水濡れは本の大敵である。地球温暖化は、図書館にとっても深刻な課題を突き付けている。(T)